

多久市の魅力を多くの人に届けたい



スポットライトを浴び、生き生きと役を演じる市民ミュージカル劇団「多久ミュージカルカンパニー(以下:TMC)」の団員たち。今年6月で結成10周年を迎え、さらに飛躍するTMCの活動をご紹介します。

地域に根ざす

ミュージカル劇団

平成22年の初頭、当時の多久市中
央公民館の館長だった川内丸信吾かわらまのしんごさんが、多久市に演劇文化を根づかせたいという思いから、全世代を対象とした市民ミュージカル劇団結成に立ち上がり、市内に住んでいた演劇家の青柳達也あおやまたちやさんらの協力を得て劇団をスタートさせました。

その年の11月の旗揚げ公演以来、演目は多久市の歴史や伝説、人物などをテーマにしたオリジナルの作品を演じてきました。

長尾代表は「TMCは多久市で誕生し、地元に着した劇団ですので、多久市にまつわる題材にこだわっています。私たちの劇を通じ、みなさんに地元の良さを再認識してもらえたらと思っています。特に第7回公演の西ノ原大明神にまつわる『林姫りんひめ哀話あいはわ』伝説を西ノ原大明神の境内で行った時は、地元の人から『多久市にこんな伝説があったとは知らなかった』『改めて分かって感動した』と喜んでいただきました」とこれま



での活動への手応えを語られます。



▲きれいなハーモニーを響かせる団員たち

心を育て、

思いを込める表現

演技だけでなく、歌やダンスといった表現力が求められるミュージカルで、TMCが一番大切にしているのが「心を育てる」ことです。

多久ミュージカルカンパニー
ながお ふとし
代表 長尾 太 さん